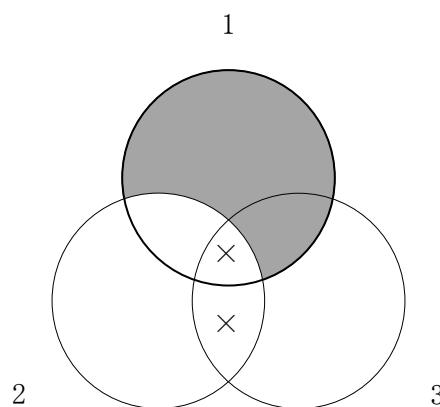


### 【定言的三段論法】

こんなジョークがある—マルクスとケインズの二人があの世で激しい論争をしている。全く相反する思想を持った二人、やはり意見が合わない。しかし、「自分の理想を最も忠実に体現した国はどこか」という話題になった時、初めて二人の意見が一致した。二人とも「それは日本である」と答えた—。戦後の日本は「日本型社会主義」などと言われ、一億総中流意識という言葉に代表されるように、格差の少ない社会であるとして評価される一方、政府が産業の保護や育成を目的に様々な規制を行い、国家が過剰に市場に介入しているとして、欧米諸国から批判された（とくに 1980 年代の日本叩きの時代は、この傾向が顕著であった）。しかし、仮に社会主義を「政府が経済活動に介入する事で、国民の経済的平等を達成しようとする思想」と定義し、日本がそのような社会だとしても、必ずしも「日本=社会主義国」であるとは限らない。これを論理学で考えれば、以下の論理が破綻している事からも明らかである。

すべての社会主義国は政府が経済活動に介入し、国民の所得格差が小さい。  
ある国（日本）は政府が経済活動に介入し、国民の所得格差が小さい。  
∴ある国（日本）は社会主義国である。

この論理は誤りである。すなわち、社会主義国でなくとも、政府が経済活動に介入し、国民の所得格差が小さい国も存在するのである。



- 1.社会主義国
- 2.政府が経済活動に介入・所得格差が小さい
- 3.国（資本主義国、非同盟諸国など）

### 【条件的三段論法】

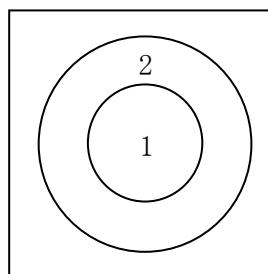
人間はいつ神を持ったのであろうか。これを進化の過程で考えるなら、どの段階で人類は神という抽象的なものを思考できるようになったのかという問いになる。最新の人類学および脳科学では、新人になった段階で人類は初めて抽象的な思考ができるようになったと考えられている。よく人類は進化とともに脳の容量が増大していったと言われる事があるが、これは誤りである。実は新人である現代人の脳の平均容量が  $1450 \text{ m}^3$  であるのに対し、旧人であるネアンデルタール人の脳の平均容量は  $1600 \text{ m}^3$  あった。しかし、彼らの脳は個々の部位は発達していても、各部位の結び付きが弱く、その為、抽象的な思考はできなかったと考えられている。例えるなら、ネアンデルタール人の脳が一台のスーパーコンピュータであるのに対し、現代人の脳は一台のコンピュータとしては劣るものの、ネットワークで縦横に繋がっており、これにより全く異なるものを結び付けて抽象的な思考ができるのである（例えば、「リンゴ 2 個にリンゴ 3 個を加えると、全部でリンゴは 5 個になる」を「 $2+3=5$ 」のように実体の無いものに置き換える事ができる）。その一方で、実は人間以外の動物も抽象的思考ができるという主張もある。京都大学の霊長類研究所で飼育されているチンパンジーの「アイ」は、数字の意味およびその大小を完全に認識しているという。果たして人間以外の動物も神のような超越的なものを持ちうるのかどうかは不明だが、いずれにせよ、人間が抽象的思考能力というものを手に入れたその時、神という存在を発明するのは必然であったと言える。これを論理学で考えれば以下のようになる。

もし人間が抽象的思考を持つならば、（人間は）神を持つ。

人間は抽象的思考を持つ。

∴（人間は）神を持つ。

この論理に従えば、人間は抽象的思考を持つ以上、必然的に神を持ち、進化（あるいは退化）でもしない限り、人間は永遠に神を捨てる事ができないのかもしれない。



- 1.抽象的思考を持つ
- 2.神を持つ